

課題の5	春植えタマネギにおける基肥一発肥料の施用効果（継続）
------	----------------------------

転作田でのタマネギ栽培の拡大に向け、慣行肥料と専用肥料をそれぞれ基肥一発施用とした場合における収量の違いを比較し、今後の栽培普及の資料とする。

1 調査内容

(1) 栽培環境 露地ほ場

(2) 供試品種 マルソー（カネコ種苗）：早生

(3) 耕種概要

①播種日：2月12日 200穴セルトレー

②定植日：4月17日

③栽植様式：畝幅 190cm（床幅 90cm）株間 12cm 条間 24cm 4条植え
栽植株数 17,544本/10a

④施肥量

区分	肥料名（N-P-K%）	施肥量（成分量 kg/10a）		
		窒素 N	リン酸 P	加里 K
調査区	ベストマッチタマネギ用（17-15-13）	12.2	10.8	9.4
対照区	燐硝安加里 1号 S552（15-15-12）	9.6	9.6	7.7
	有機アグレット 666（6-6-6）	2.4	2.4	2.4
	パワーリン（0-30-0）	0.0	2.4	0.0
	計	12.0	14.4	10.1

※N：P：K=10～15：12～18：10～15（成分量 kg/10a）（青森県やさい栽培の手引より）

⑤収穫日：8月3日

2 生育状況

定植から2週間毎に生育状況を調査し、その結果は表1のとおりである。全期間を通じ、調査区より対照区の方が生育が良かった。6月以降にべと病の発生が見られた。

（薬剤散布状況は表2参照）

表1 生育状況

項目	区名	5/1	5/15	6/1	6/12	6/26	7/10
草丈 (cm)	調査区	18.8	18.7	26.4	34.9	64.3	81.9
	対照区	19.5	20.2	29.6	41.0	72.3	86.6
葉数 (枚)	調査区	4.3	5.5	6.4	5.6	7.8	8.0
	対照区	4.2	5.8	6.4	6.4	8.5	8.7
茎径 (mm)	調査区	—	—	8.3	11.2	17.7	17.9
	対照区	—	—	8.5	12.1	18.7	19.8

表 2 薬剤散布状況

散布月	殺菌剤（成分）	殺虫剤（成分）	対象病害虫
3月	2回（TPN, マンゼーフ）		べと病
4月	2回（トリフルミゾール, ピラコロステビン・ホスカリド）	2回（ハルメトリン, タイゾノ）	乾腐病、ネリムシ ハダカバエ等
5月	1回（マンゼーフ0.1ミト）		べと病
6月	1回（マンゼーフ, ホライズン）	1回（ピリダリル）	べと病、アザミヤ
7月	3回（アゾキシストロビン, ピラコロステビン・ホスカリド, シモキサニル・ベンチアバリカルブイソプロピル, 炭酸水素カリウム）	2回（シハルメトリン, アセタミプリド）	べと病、ハダカバエ、アザミヤ

3 調査結果

調査区及び対照区において収量調査を行った結果を表3に示した。表1にも示したとおり、生育状況についても対照区の方が調査区より良かったことから、秀品割合及び調整重、収量については対照区の方が高くなった。

表 3 10a 当たり換算収量

区名	栽植株数 (株/10a)	秀品割合 (%)	秀品個数 (個/10a)	調整重 (g/個)	収量 (kg/10a)
調査区	17,554	88.8	15,588	150.7	2,349
対照区	17,554	89.4	15,693	156.4	2,454

収穫したタマネギの調整後におけるサイズ毎の収穫個数割合を図1、秀品・規格外の個数割合を図2に示した。サイズ毎の収穫個数割合を見ると、対照区の方が調査区よりMサイズ以上の割合が高くなったものの、Sサイズ未満のものは同程度の割合となった。

奇形や腐りなどの規格外品の割合については、ほとんど差がなかった。

図 1 サイズ毎の収穫個数割合

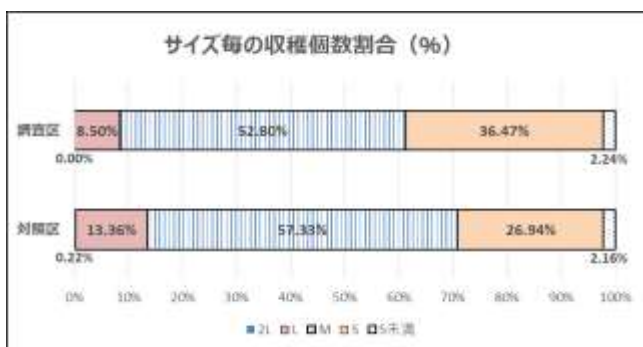


図 2 秀品・規格外の個数割合



4 まとめ

今回の調査では、生育、収量については慣行肥料を用いた対照区の方が大きい結果となった。専用肥料のみを用いた調査区では、県の基準施肥量と比較してリン酸成分がやや不足したため、複数の肥料を組み合わせることで施肥分量を調整した対照区の方が、生育や収量が良くなったものと考えられる。

昨年度は調査区の秀品割合が対照区より明らかに高かったため、10 アール当たりの収量は調査区の方が良かったが、今年度の調査では調査区と対照区の秀品割合が同程度となった結果、対照区における収量が良くなったことから、次年度も改めて調査を行う。

〈参考〉昨年度の調査結果

表 4 収量調査

区名	全長 (cm)	全重※1 (g)	調整重 (g)	球の直径 (mm)	球の高さ (mm)	10a 当たり 換算出荷量 (kg/10a)
調査区	66.6	221.5	155.0	68.6	61.0	2,139
対照区	68.6	271.2	196.9	73.8	69.7	1,968

※1 葉や茎がついた状態

図 3 サイズ毎の収穫個数割合

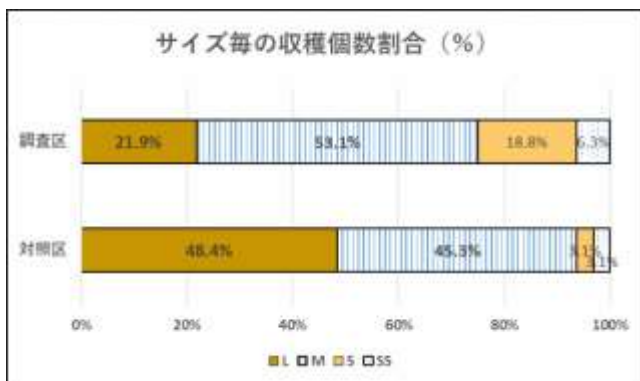


図 4 秀品・規格外の個数割合

